

シリーズ「放課後子ども教室推進事業」 初中教育ニュース（初等中等教育局メールマガジン掲載）

【第53回】

子どもと大人が学び合う「ヒゴタイわいわい放課後子ども教室」

熊本県阿蘇郡産山村立産山小学校長 工藤圭一郎

本校では、平成16年度から3年間、地域子ども教室として「わいわいヒゴタイ土曜塾」「子ども水泳教室」「放課後英会話教室」を開設し取り組んできました。平成19年度からはこれらの取組をベースにして、子どもたちが安心して活動できる居場所を提供するとともに、子どもたちが楽しく活動したり交流したりできるように地域の人材を活用した放課後子ども教室を実施しています。

本年度は、毎週火曜日を活動日とし、1年生から3年生までの34名全員が参加する年間30回程度の活動と、全学年を対象にした「土曜塾」を年間5回程度実施する計画にしています。

活動内容は、1、2年生が手作り工作を中心にしたもので、その他に野菜栽培などの特色ある活動もしています。

昨年度は、地元で野菜作りを専門にしているボランティアの協力を得てブロッコリーの苗植えをして、その世話や収穫体験をしました。子どもたちは収穫したブロッコリーを満面の笑みで食べていました。この活動は食育にもつながるので、今年度も実施予定です。

3年生は年間を通してそろばん学習に取り組んでいます。最初は珠の動かし方さえも分からなかった子どもが、後半になると簡単な四則計算までできるようになるなど、その上達ぶりには感心させられます。子どもたちが「わかる(できる)喜び」を感じていることは、答えをはじき出した時の笑顔でわかります。

また、熊本県教育委員会が放課後子ども教室支援事業の一つとして進めている「放課後の達人」も活動に取り入れています。この活動は子どもたちに人気があるだけでなく、工夫された教材にコーディネーターや地元ボランティアの方々からも「私たちも参考になります。」などの声が聞かれ、教室の運営にも役立っています。

「土曜塾」では、郷土料理づくりやバードウォッチング、読書祭り(読み聞かせ)などの活動を計画して、異年齢の子どもたちが交流するようにしています。

放課後子ども教室では、子どもたちが学級とはちがった輝きの顔を見せます。それは様々なボランティアや講師と一緒に活動する中で、新たな感動を発見するからでしょう。

「子どもとかかわると、自分自身も学習意欲がわいてきます。」の言葉が表しているように、教室に携わっているボランティアの人たちも子どもとともに学び合っているようです。

このように、子どもたちが安心して放課後を過ごし「喜び」を見つけることができるのも、コーディネーターをはじめ多くの方々の支援のおかげだと感謝しています。今年度も創意工夫をしながら、子どもたちが輝く教室を実施していきたいと思えます。

(初中教育ニュース(初等中等教育局メールマガジン)第178号に掲載)